

日本 GIF オンラインセミナー
「川がつなぐ国と国—ブラマプトラ川から見る国際機関業務の現場—」
実施報告書（概要版）

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団

セミナー開催概要

- 主 催：公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団（日本 GIF）
- 日 時：2025 年 5 月 29 日（木）10:00～11:30
- 開催形式：Zoom を利用したオンライン形式（ウェビナー）
- 講演者：田中 幸夫 氏（世界銀行）
- 司会者：中山 幹康（日本 GIF 理事長）

開催の趣旨

国際協力への懷疑や援助機関への風当たりが強まる昨今、現場で築かれる「見えないインフラ」、国際協力基盤に光を当てる必要がある。本セミナーでは、ワシントン在住の世界銀行上級水資源管理専門官の田中幸夫氏が、ブラマプトラ川流域（インド・アッサム州、ブータン、バングラデシュ）で進行中の大規模プロジェクトを題材に、「国境を越える水」の管理が平和と包摂的成長を支えるメカニズムを、現場目線で掘り下げた。

洪水予警報モデルの共同開発、上流・下流の利害調整、州政府と中央政府のねじれ、さらにはアジア開発銀行との役割分担——複雑なステークホルダーを束ねる際、世界銀行は「中立の触媒」としてどのように合意形成を進めるのか。データ共有の合意文書づくりや資金インセンティブ（リバブル・プラネット・ファンド）の設計、技術協力に伴う人材育成まで、平時から紛争の芽を摘む、国対国の相互関係を築くための活動について伺った。加えて、海への物流動脈となる内水面航路整備をめぐり「下流国が上流国を動かす」逆転現象が協力の呼び水となる事例も取り上げ、従来イメージとは異なる国際河川交渉のダイナミズムを浮き彫りにした。

講演要旨

国際河川とは、流域が複数の国にまたがる河川を指す。世界には 300 以上の国際河川があり、150 か国以上が共有している。国際河川流域は世界の陸地面積と人口の約半分を占め、国境を越える水資源の管理は国際関係において極めて重要である。

日本の農業水利で用いられる「上流優位」「古田（こでん）優先」の原則は、国際河川でも見られるが、国家間の力関係などが影響し、一義的に適用されるとは限らない。1997 年に、国際河川における協力や紛争対応を目的とする「UN Watercourses Convention（国際水路の非航行的利用に関する条約）」が採択されたが、多くの上流国は未批准である。南アジアでも国際河川は外交・安全保障において重要である。地域覇権国のインドは、ガンジス川のファラッカ堰やインダス水協定などで影響力を持つ。世界銀行は、技術や政策に関する

グローバルな知見、信頼性、広範なネットワーク、資金調達能力に加え、多様なステークホルダー間の調整機能（いわゆる Convening Power）を活用して支援にあたっている。

ブラマプトラ川は中国を水源とし、インド（アッサム州）・バングラデシュを経てベンガル湾に注ぐ。アッサム州では、多数の支川を含め、ブラマプトラ川の豊富な流量が洪水や河岸浸食で大きな被害をもたらし、州の主要産業の紅茶の生産にも影響が及んでいる。

世界銀行の「アッサム統合河川流域管理プログラム（AIRBMP）」は、主にブラマプトラ川の支川を対象としている。フェーズごとに規模や対象を拡大し、計画策定から投資、防災体制の構築へと展開する。長期的には、堤防のモニタリングと修繕体制、洪水予警報の整備なども同時に進める。アッサム州が工事の調達と実施を担い、世界銀行はその支援を行う。

世界銀行は、本川の整備を実施しているアジア開発銀行（ADB）と進捗を連携管理している。また、ブータンとは水文情報の共有による洪水予報の精度向上、バングラデシュとは内陸水運や生態系保全に向けた河川情報（流量・河川形態）での連携も模索している。2022～2024年には、ブータン・インド（アッサム州）・バングラデシュでの相互訪問や、河川形態・洪水予測・内陸水運に関する技術ワークショップ、ガンジスカワイルカ保護を目的とした地域プラットフォームの設立など、多様な地域協力活動がすでに展開されている。政府や開発パートナー（DPs）による投資として、インド政府はブータンの水文観測所建設やバングラデシュでの河川浚渫事業に資金を提供しているが、データアクセスに課題もある。

今後は、日本を含む世界銀行出資国が拠出する Livable Planet Fund（LPF）を活用し、三国連携プロジェクトを 2026 年 1 月開始予定の AIRBMP フェーズ 2 に組み込む見通しである。実施主体はアッサム州の FREMAA（Flood and River Erosion Management Agency of Assam）が、インド中央政府との調整は水資源省傘下の Brahmaputra Board が担う。ブータン・バングラデシュ両国とは大枠で合意しているが、後者は政情不安により今後の進展に予断を許さない状況である。2025 年 4 月のインダス水協定の停止は地域協力全体への不安要因と見られたが、現時点ではブラマプトラ川に関する協力に目立った影響は出ていない。

南アジア（特にインド）では国際河川を巡り国家間の軋轢が生じてきた経緯があるため、国際河川問題に触れることがタブーとされるきらいがある。しかし、それぞれの流域国にメリットがある場合はその限りではない。特に内陸水運は、経済成長・脱炭素に貢献し、上下流でゼロサムの競合関係が発生しにくいと、相互利益を見出しやすい。ブラマプトラ川の洪水予警報の協力は、水文情報が必要な「下流の大国（インド）」と、インフラ整備が必要な「上流の小国（ブータン）」という珍しいケースだが、ガンジス流域のインド・ネパール関係にも適用可能な示唆を含んでいる。こうした地域協力を推進するには、国際機関の触媒的役割に加え、地域協力のための資金メカニズムの整備が不可欠である。国際河川をめぐる協力は、流域国間の互恵的な相互依存関係の構築に寄与し、結果的に国家間紛争予防の一助となる。

アンケート・感想

参加者に対し、セミナー終了時にアンケートを表示し回答を依頼した。セミナーを知った経緯、セミナーの中で特に関心を持ったセクション、感想、要望等、貴重な意見を得た。

以 上